

鏡野町立中学校統合について

鏡野町行財政改革審議会は、平成18年11月に鏡野町立中学校の統合について、町長に次のとおり答申をしています。

鏡野町行財政改革審議会の答申内容

1. 現状と課題

本町においては若者の都会志向と少子高齢化社会の進展により、園児及び児童生徒は減少傾向にある。こうしたなか、特に奥津、上齋原、富の中学校は、今後も生徒数の増加はあまり期待できず、ますます小規模化が進行していくものと予想される。

上齋原及び富中学校は、生徒数が20人前後的小規模校であり、学校行事、クラブ活動などの学校運営に関するところに影響がでている。また、奥津中学校は、昭和42年に建設された校舎で39年余り経過し、老朽化と併せて耐震診断を余儀なくされており、今後においては多額の財政負担が見込まれる。

小規模校では、目のゆきとどいた教育を進め個性の伸長が図られる側面もあるが、人間的成長発達を図るために集団としてのある程度の規模が必要である。

本町の将来を担う子どもたちは、地域の宝であり、恵まれた自然の中で夢と希望を持ち、健やかにのびのびと成長することができるよう、教育内容の充実、指導体制の強化など、より質の高い教育環境が必要と思われる。

2. 審議の経過

地域から中学校がなくなることについては、郷土愛着心の希薄化、地域の衰退などの意見とともに、通学の長時間化、生徒や保護者負担の増加など諸問題を論議した。

また、地域住民の理解を得るために、段階的な統合も提起されたが、学校本来の目的である人格の完成を目指し、より良い教育環境を実現するため、次のとおり審議会の意見として提言する。

3. 結論

現在ある4中学校のうち、奥津中学校、上齋原中学校、富中学校それぞれ鏡野中学校に統合することが望ましい。

統合にあたっては当然のこととはいえ、地域住民をはじめ保護者及び学校関係者とも協議し、理解が得られるよう努力する必要がある。

この答申を受けて町長は、町実施本部の実施計画に基づいて、町教育委員会に対して統合を進めるよう指示しました。そこで、町教育委員会は平成19年8月に「鏡野町立中学校統合並びに鏡野町学校給食調理場統合検討委員会」を設置し、鏡野町立中学校統合について諮詢をいたしました。「鏡野町立中学校統合並びに鏡野町学校給食調理場統合検討委員会」は鏡野町立中学校の統合について検討を始めるにあたって、「鏡野町立中学校統合に関するアンケート調査」を行いました。その調査結果を次のとおりお知らせします。

鏡野町立中学校統合に関するアンケート調査結果

アンケート回答率（保護者・区長等別）（問1・問4）

〔地区別の回答率〕

地区区分	鏡野地区			奥津地区			上齋原地区			富地区		
	送付数	回答数	回答率	送付数	回答数	回答率	送付数	回答数	回答率	送付数	回答数	回答率
保護者	264	98	37.1%	72	44	61.1%	38	23	60.5%	32	11	34.4%
区長等	56	36	64.3%	82	41	50.0%	34	20	58.8%	25	12	48.0%
計	320	134	41.9%	154	85	55.2%	72	43	59.7%	57	23	40.4%

〔鏡野町全体の回答率〕

	送付数	回答数	回答率
保護者	406	176	43.3%
区長等	197	109	55.3%
無回答		5	
合計	603	290	48.1%

回答者の年齢（問2）・性別（問3）

